

# 自己点検・自己評価 報告書

(2023年4月1日～2024年3月31日)

2024年5月1日現在

学校法人 未来学園  
京都文化医療専門学校

## 1. 学校の教育目標

学校法人未来学園 京都文化医療専門学校（以下、本校）は、平成 25 年 4 月に開校した  
歯科衛生士養成校である。

学校法人未来学園は、法人本部を群馬県前橋市に置き、前橋医療福祉専門学校と高崎歯科  
衛生専門学校を含めて 3 校を運営している。医療・福祉分野の総合学園として、35 年を超  
える歴史の中で 8,000 名以上の卒業生を医療・福祉分野に輩出してきた。教育方針に  
「Learning Together, Thinking Together」を掲げ、学生と教職員が共に学び、共に考える  
教育を実践し、広く社会に貢献できる人材を育成するため、専門的な知識と技術に加えて、  
人間性や倫理観を重視した教育を行っている。

近年、グローバル化が急速に進展しつつあり、企業・国家間の競争が激しくなる中で、日  
本国内においても国際人として日本の文化等の教養を備えた人材が求められている。

本校では、京都の伝統・文化・歴史を学ぶことを通じて「日本人としての心」を軸にした、  
歯科医療業界で活躍できるホスピタリティーあふれる人材の育成を目指している。

## 2. 評価項目の達成及び取組状況

### (1). 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1
・学校における職業教育の特色は何か	4	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱 いているか	4	3	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想など が学生・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する 業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

#### ① 課題

高齢化の進展、医療の高度化・専門化等の環境の変化に伴い、社会から求められる歯科衛生士の資質を兼ね備えた人材の育成を行うことが大切である。社会の変化や制度の変化に対応した養成目的や教育目標の見直しを行い、教育現場に落とし込むためのシステムの構築が重要であるとの認識を持っている。

また、地域においては各医療機関より歯科衛生士人材の不足が強く懸念されており、歯科衛生士養成校に対して人材供給力としての期待が高まっている。本校は、地域の歯科医師会や歯科衛生士会との連携の下で、各地域における歯科衛生士の人材供給を効果的に行うことが求められている。

#### ② 今後の改善方策

歯科衛生士は、それぞれのライフステージに応じた歯・口腔の健康づくりの専門職として、歯科医療施設のみならず、地域の保健センター、保健所、保育所・幼稚園、学校、企業の健康管理室、そして、高齢者の居宅や介護保健施設、障害者等の社会福祉施設等、様々な施設において活躍することが期待されている。国家試験の合格はもちろんのこと、基本的知識や技術に加えて、医療従事者としての人間性や倫理観を備えた歯科衛生士を養成するためのカリキュラムの構築を目指す。

#### ③ 特記事項

本校は歯科衛生学科(3年制)を設置しており、教育方針「Learning Together, Thinking

Together」を掲げ、学生と教職員が共に学び、共に考える教育を実践し、広く社会に貢献できる人材を育成するため、専門的な知識と技術に加えて、人間性や倫理観を重視した教育を行っている。

本校では教育上の特色として、基礎分野において「きもの」「茶道」「華道」「日本伝統文化」「礼儀作法」等の授業を行い、「日本人としての心」を学ぶための機会を多く取り入れている。京都の伝統・文化・歴史を学ぶことを通じて「日本人としての心」を軸にして、ホスピタリティマインドを持ち、歯・口腔の健康づくりを通して、食べる力、生きる力をサポートできる歯科衛生士を目指している。このような教育的特色を活かしながら、臨床現場のニーズに応えられる、より付加価値の高い人材の育成を目指していく。

## (2). 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	3	2	1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

### ① 課題

毎年度、学園全体としての視点から経営情報等を分析し、学校・部門毎に事業計画を作成した後、理事会・評議員会の承認を得て、学園全体としてのバランスを図りながら学校運営を行っている。学園全体の方針や方向性は、各種会議体や研修等によって全教職員に周知されている。変化の激しい業界のニーズに応えるためには、教職員間のより密度と定時性の高いコミュニケーションが求められているとの認識を持っている。

### ② 今後の改善方策

現在、教職員間のコミュニケーションを図るために、グループウェアを活用し教職員のスケジュール管理やファイル共有を行い、情報の「見える化」「共有化」を図っている。特にオンラインミーティングソフト「ZOOM」やマイクロソフト社の「TEAMS」等を活用し、学内会議や外部組織との打ち合わせに活用するなど、教職員や学生とのコミュニケーションを図るツールとしてより一層活用しているが、今後も、情報の一元化・共有化にも取り組み、業務の効率化・オンライン化も推進しながら、ペーパーレス化も加速させたい。

### ③ 特記事項

理事長が年度初めに基本方針（運営方針等）を示し、各セクションで実行方針・実行計画

について話し合いや調整を行いながら事業運営を行っている。

本校では各学年や教科担当、教務間における連携を密にし、学生状況の把握や学校運営に係る課題や情報をスムーズに共有することで、より質の高い教育の実践を目指している。

### (3). 教育活動

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1

・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1
-------------------------	---	---	---	---

① 課題

社会から求められる歯科衛生士の資質を兼ね備えた人材の育成を行うためには、社会の動向を常に捉え、その変化にキャッチアップしながら、養成目的や教育目標の見直しを定期的に行わなければならない。社会からの要請との間にかい離することなく、付加価値が高く、即戦力としての人材育成が本校の責務であると認識している。歯科衛生士として臨床の場において求められる資質を備えるために、臨床実習施設等と一層の連携を図りながら、充実した臨床実習等を行うことが求められている。

② 今後の改善方策

社会の動向を常に捉え、その変化にキャッチアップするためには、社会からの要請の内容を的確に捉えていかなければいけない。そのためには本校を取り巻く様々なステークホルダーが抱えるニーズを把握する必要がある。実習施設や保護者、学生、地域社会、就職先施設等と連携を取りながら、ステークホルダーが抱えているニーズを把握するために、意見交換をする機会を設ける必要がある。例えば学生アンケートを実施し、授業内容や教授方法等について意見を聴衆する機会を設けているが、これらの評価結果を効果的に取り入れていけるような評価・改善システムの確立が必要である。

③ 特記事項

実習施設には実習時において定期的に巡回しているが、通常は実習生の取り組み内容に対する確認の場となっているが、このタイミングを上手く活用し、実習施設からのニーズを捉えるタイミングとして情報共有を図ることも大切だと認識している。

本校歯科衛生学科は2024年度より専門実践教育訓練給付金制度の指定講座となるが、地域における歯科衛生士の人材不足が懸念されている状況を鑑み、地域の歯科医師会や歯科衛生士会と連携をしながら、社会人の学び直しやリスキリングのニーズにも応えられるような取り組みも進めていきたい。



#### (4). 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	4 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	4 3 2 1
・退学率の低減が図られているか	4 3 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 3 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 3 2 1

##### ① 課題

国家資格取得については、本校独自のカリキュラムにより個別対応を軸とした試験対策を行い、合格に結びつけるようにしているが、個々の学生間において学力や理解の程度に幅があることから、より一層の工夫と対策が必要であると認識している。

退学率については、本年度は昨年度と比較すると改善しているが、今後も良い状態が維持できるように継続的な取り組みが大切である。学生一人ひとりに考慮した対応が必要となる。

就職については、歯科衛生士の求人状況が活況であることから、就職希望者の就職状況は良好であると言える。今後は、卒業生の求人・就職ニーズについても情報を収集する仕組みを作り、歯科医療業界における歯科衛生士の求人ニーズに対応していくことが求められている。

##### ② 今後の改善方策

就職指導は3年生後期に行われることから、臨床実習や国家試験対策等と時期が重なり、就職指導に必要な時間の確保が困難となる可能性がある。3年間の就職活動サポート計画を示し、学生自身の就職に対する意識を高め、早い時期から主体的に行動する意識を持たせるようにカリキュラム編成を行うことが必要である。

##### ③ 特記事項

本校歯科衛生学科では、「キャリアデザイン」の授業を設けて、社会で求められている仕事の心構えや責任感等を理解し、歯科衛生士として働くことの意義や態度について考え、学ぶ機会を作っている。また「グローバルコミュニケーション」の授業においては、海外や日本の伝統文化を理解しながら、感受性を磨き、多様な思考方法を身に付け、社会の要請に応

えられる歯科医療人材の育成を目指している。

## (5). 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
・保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・ 職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

### ①課題

学生支援には、①学生生活 ②健康 ③学費 ④就職 等の分野があると認識しており、それぞれの分野において対応できるように教職員間の情報共有を図りながら支援を行っている。最近、経済的側面に関する相談が増加しており、奨学金や教育ローン等の紹介や説明等を行っているところであるが、経済的な側面のみならず、生活・学習面においても支援が必要なことがあることが多い。教職員間において情報共有を密に図りながら、適宜支援が行えるよう、十分な支援体制を構築する必要がある。

### ② 今後の改善方策

①学生生活 ②健康 ③学費 ④就職 等の分野において学生支援を行うためには教職員間の情報共有を図り、学生に必要な支援ニーズを的確に捉え、対応していくことが求められる。現在、教職員間のコミュニケーションを図るために各種会議体や研修等を行っているが、今後はより情報共有の密度を高めるために、定時性の高い仕組みを取り入れることが重要である。

経済的なサポートにおいて、専門実践教育訓練給付金制度は2020年度より適用校から外れたため、社会人学生の入学ニーズに応えられなくなっており、再び指定講座となるべく、

引続き環境の整備に取り組む必要があったが、2024 年度より歯科衛生学科が厚生労働大臣の指定講座となったため、社会人学生の経済的ニーズに合致した広報展開を行うことが可能となる。

### ③ 特記事項

本校では、教育方針に「Learning Together, Thinking Together」を掲げ、学生と教職員が共に学び、共に考える教育を実践し、広く社会に貢献できる人材を育成するため、専門的な知識と技術を加え、人間性や倫理観を重視した教育を行っている。学生支援においても、学生と教職員が共に考えながら、学生と教職員と一緒に支援の方向性を導き出していけるような体制の構築が大切であると認識している。

2020 年 4 月からは国の修学支援新制度の対象となっており、2023 年度は 36 名の学生が給付奨学金及び授業料等減免の対象者として支援を受けた。修学支援新制度は日本学生支援機構の給付奨学金制度と学校の授業料等減免制度の 2 つの制度からなっており、学生や保護者にとって分かりにくい側面があるので、制度についていかに分かりやすく伝えていくのか工夫が求められる。

## (6). 教育環境

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

### ① 課題

教育環境の整備については、日常的に業界の方々や講師陣、学生、保護者から情報をヒアリングしながら機材や道具、図書を充実させるなど、様々な工夫を行っている。

現在は Microsoft 社の teams により、オンライン形式においても学生と教員が双方向に授業に参加できるようにし、教育効果が低下しないように工夫を行っている。また、teams ではリアルタイムに双方向のやり取りが可能なので、学生と教職員間の情報共有が円滑に進むため、今後も一層活用していくことが肝要であると認識している。

### ② 今後の改善方策

新型コロナウイルス感染を最小限にするために昨年度に引き続き本年度も一部の授業については WEB を活用したオンライン形式で実施した。オンライン授業では Microsoft 社の teams を活用し、教員と学生が双方向で授業に参加できるようにし、教育効果が低下しないように工夫を行った。今後も引き続きリアルとオンラインの併用によるハイブリッド形式で授業を実施できるように体制を整えていくことが求められている。

## (7). 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

### ① 課題

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、来場者に安心してオープンキャンパスに参加して頂くことが出来るように、感染防止対策を十分に実施した上で、オープンキャンパスを実施することが求められている。又、来校型のオープンキャンパスのみならず、WEBを活用したオンライン型オープンキャンパスや個別見学会を実施し多様な広報活動を展開することがより一層求められている。

### ② 今後の改善方策

従来の来校型のオープンキャンパスや個別見学会のみならず WEB を活用したオンライン型オープンキャンパス・個別見学会を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響が少しずつ収束する中、オンライン型オープンキャンパスのニーズは低下しつつあるが、不測の事態が生じた場合にも対応できるように備えておくことが大切だと認識している。

また、2024年度より京都で4校目となる歯科衛生士養成校が設置され、本年度より学生の募集活動が開始するため、本校の募集活動への影響を見極めながら、より一層の取組みが必要となることを見込まれている。

## (8). 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
・財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

### ① 課題

学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定している。しかし、学校法人を取り巻く環境の変化や会計の厳格化を背景として、学校法人の経営状態を社会に対してより正確に、分かりやすくすること、そして適切な学校経営の判断に役立つものとするのが大切であるとの認識を持っている。

### ② 今後の改善方策

充実した教育活動を永続的に推進する使命を持つ学校法人は、それを実現するために健全な財務基盤の確立が求められている。このためには、本校及び法人運営においては常に学園の財務状況を把握し、健全性を保つために努力することが不可欠である。学校法人は公共性、公益性が高く、その使命と役割から考えると、大きな社会的責任を有している。社会的責任を果たすためには、全教職員が、経営・財務的な側面についても理解を深め、一人ひとりが自覚を持って日々の職務に邁進できるような環境を保つことが大切であると考えている。

### ③ 特記事項

学校法人は公共性、公益性の観点から、学校経営の健全性を高め、永続的に教育活動を行うことが求められている。本校は、財務基盤の安定性を通じて、教育の充実及び向上を図り、その社会的責任を果たすべく学校運営を行っていきたいと考えている。

### (9). 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	3	2	1
・自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

#### ① 課題

本校では、専修学校設置基準、歯科衛生士学校養成所指定規則、歯科衛生士養成所指導要領等の法令や基準等に基づき学校運営を行っている。また個人情報については、個人情報の保護に関する法律の趣旨や目的を鑑み、個人情報の適正かつ効果的な活用等をもって、本校を取り巻く利害関係者の安心・安全を確保することにつなげていきたいと考えている。

継続的に自己点検・自己評価の実施を行っており、2019年度からは学校関係者評価も実施しているが、利害関係者と緊密な連携を保ち、社会への説明責任の遂行や教育の質の保証、向上と社会からの信頼の獲得につなげていくことが大切であると認識している。

#### ② 今後の改善方策

近年、情報通信技術（ICT）の進展に伴い、様々な情報をデジタルデータとして収集・蓄積・管理・加工・編集し、ネットワークや記憶メディアを通じてやり取りすることが容易になっている。個人に関する情報も、インターネットやスマートフォン等を通じてやり取りされる機会が増加しており、これらを扱う本校にとっても、個人のプライバシーや個人情報の保護が重要な課題となっていることから、個人情報保護の取り組みをより強固なものとするために、学校運営の仕組みを構築し、同時に全教職員が個人情報保護に対する認識をより向上させるための教育が重要であるとの認識を持っている。

#### ③ 特記事項

本校では、学校に設置されているパソコン端末の Web アクセスを一元管理し、証跡を追える Web プロキシのログを取得することで、Web セキュリティー対策を実施している。さらに各パソコン端末の Web アクセスを制御することで、出口対策を行い不用意に組織内部の情報が外部に晒されることがないように仕組みを構築し、個人情報の保護に必要な対策を講じている。



### (10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

#### ① 課題

本校は地域医療の人材を育成する教育機関であり、社会貢献や地域貢献、ボランティア活動等の取り組みを積極的に実施すべきであると認識している。教育面においては、歯科医療現場のみならず、地域の保健センターや高齢者向け施設等における歯科保健指導の取り組みに参加する等、地域とのつながりを重視した教育を推進している。

#### ② 今後の改善方策

学生のボランティア活動については、学生が積極的に参加できるように情報提供を行うとともに、側面的な支援を実施したい。

#### ③ 特記事項

本校歯科衛生学科では、1年次において「国際医療とボランティア」の授業を設けて、ボランティア精神について理解を深め、ボランティア活動を担える資質を、早い時期から身に付けることを目標としている。医療人として、欠かすことが出来ないボランティア精神やその実践能力を身に付け、社会貢献の意識を一層高める教育を推進している。

(11). 国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持っているか	4    3 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">2</span> 1
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4    3    2    1
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4    3    2    1
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4    3    2    1

① 課題

医療分野において留学生等の外国人人材等の受入れについては、「質と技術の担保等の医療専門職に特有の観点」が存在すると認識している。

② 今後の改善方策

留学生の受入れを実施した場合、留学生に適切な教育環境を提供することが求められる。また、留学生が資格取得後に引き続き国内で活躍できるような環境を確保するために、様々な環境整備が必要となる。このような環境整備には本校のみならず、行政機関、業界団体、地域社会、消費者等の利害関係者による検討や制度設計等が必要であると認識している。

③ 特記事項

医療（歯科衛生）分野における留学生の受入れについては、医療技術や日本語要件等の質の担保等の医療専門職に特有の観点を踏まえつつ、利害関係者等との検討が必要である。

### 3. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学校評価については、教育目標・重点目標達成のために学校運営・教育活動の評価や情報提供を効果的に進め、改善する方法として、目標管理や業務改善等で一般的に用いられている PDCA サイクルを活用することが重要である。

このような認識の元で、今後は教育目標・重点目標を達成するために計画を立て、その計画に沿って教育活動等を行い、自己評価等を繰り返し、必要があれば見直し、改善する PDCA サイクルに沿った運用を心掛けたいと考えている。

本校は、学校評価の取り組みを通じて、

①関係業界等のニーズを踏まえた質の高い職業教育を受けられる学校運営を行う。

②実践的な職業教育機関として、職業に必要な知識・技能・態度に関わる質的な保証。などの評価の視点を大切にしたい学校運営を行っていききたい。